

# 実験で理科に興味深め

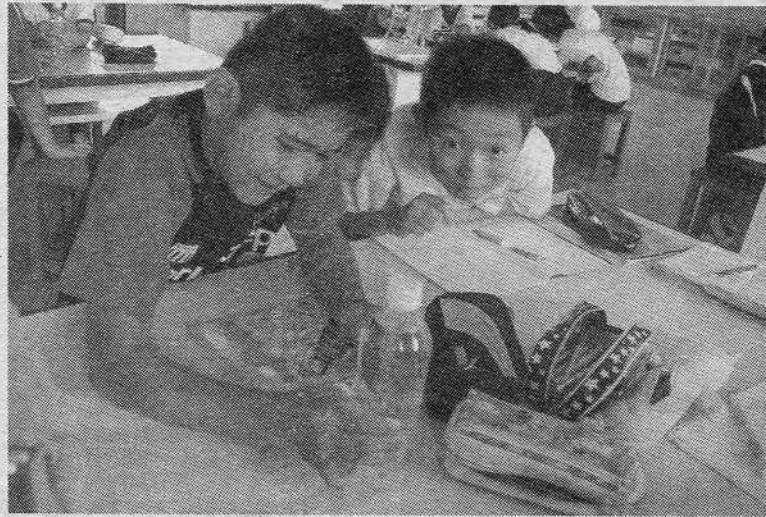
## 「くらりか」がデモンストレーション

### 西小で物体の浮き沈みや体積など

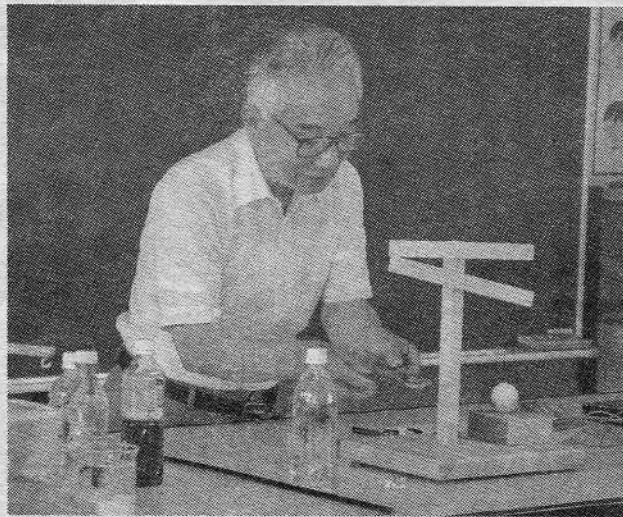
東京工業大学卒業生の集まりである「くらりか」は21日、富士宮市立西小学校(鈴木賢

校長)で理科実験教室のデモンストレーションを実施した。6、3年生は学年ごとに水中

における物体の浮き沈みや体積などについて学んだ。8月19日には保護者を招いて実験工



作を行う。同大学同窓会である「蔵前工業会」は、理科が好きな仲間を集めるため、東京や神奈川、埼玉などの小中学校や



ペットボトルの中の金魚型容器が浮き沈みする様子を観察(上)。てんびんを使って体積を測定

地元子ども会などを通じて「蔵前理科教室」(略称く

らりか)を立ち上げ、各地で教室を実施している。

静岡県でも同教室を実施する「くらりか静岡」を設立しようと準備を進めているが、今回、富士宮市教委を通じてデモンストレーションを行った。

工学博士の楠井直樹さんは、6年生28人を中心に、ペットボトルの水の中で浮いたり沈んだりする金魚型容器を見せ、子供たちに実際に動かしてもらい、

「専門用語で浮沈子(ふちんし)と呼ばれているが、容器の中に重りを取り付け、中に空気を入れたことで浮き沈みする」と、その原理について説明した。

また、ゴルフボールが水に沈むことを利用し、てんびんを使ってボールとあふれた水の重さを量ることにより、体積を割り出す実験をしたほか、「物が浮くのは、水が物体を下から押し上げる浮力が働いたため」と説明。浮力を発見したギリシャのアルキメデスに関するエピソードについても触れた。

8月19日には、児童たちの保護者に呼びかけ、今回使った実験器具などを手作りする。